

一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会
理事・事務局長 野方 英樹 様

公益社団法人私立大学情報教育協会
会長 向 殿 政 男

大学教員を著作権者とする授業目的公衆送信補償金分配に向けての提案

平素は、本協会の事業にご理解をたまり感謝申し上げます。

さて、貴協会のご努力により、授業目的公衆送信補償金制度が円滑に運用されておりますことにご同慶の至りです。

ところで、大学教員に対する著作権者への補償金分配が一部の大学を対象に便宜的に調査した利用報告に基づく分配にとどまっていることから、大多数における大学教員の著作権者に対して分配が実現されていません。

そこで、本協会として授業目的公衆送信補償金等管理協会(SARTRAS)に対して、分配の仕組みに向けた改善策として、大学教員における著作権者の一元管理の導入と、ブロックチェーン(分散型台帳)技術を用いたシステムの導入、大学をはじめとする教育機関団体の設立支援について問題提起しました。

これに対して、SARTRAS から具体的な改善策があれば検討させていただきたいとの回答がありましたので、本協会として関連機関に尋ねて以下のような提案を行うことにしました。

提案

1. 著作権者の一元管理を導入することについて

現状では、一部の大学にサンプル調査を行い、そのデータを基に分配業務受託団体に分配業務を委託していますので、SARTRAS として分配の管理全体には関わってはいないと理解しています。

著作権法が求める趣旨は、著作権者の権利を保護し、社会的な不利益を被らないようにすることで、質の高い著作物を持続的に提供できるようにするとしています。著作権者に分配される額の多寡に関わらず、著作権の対象となる全ての権利者に分配される仕組みを確立して、透明性が確保されることが前提として考えられます。

それには、著作権者としての登録を一元管理できるようにしておくことが前提となります。著作物を利用する大学組織から、授業で利用した著作権者を1年単位で報告する仕組みをネット上に設ける必要があります。報告内容は、著作物の利用年月日、著作物名、著作権者、授業利用の時間数・受講者数程度の項目で複雑にならないようなものが必要となります。

2. ブロックチェーン技術を用いたシステムの導入について

著作権者の一元管理を的確に行うには、例えば、複数のコンピュータでデータを共有するブロックチェーン技術を用いたシステムなどを導入して管理する必要があります。

日本音楽著作権協会(JASRAC)では、権利者契約のない個人の音楽クリエイター向けに音源ファイル等を登録する仕組みを始めており、ブロックチェーン技術を使っています。ブロックチェーンには、音源ファイルのハッシュ値、タイムスタンプ、ユーザ情報、タイトルとバージョンの情報を記録して、存在証明として公開されています。システムの開発は、JASRAC と(株)Sun Asterisk のプロジェクトで、検証しながら小規模に構築するスタイルで進めています。

本協会として、JASRAC 関係者にブロックチェーンの仕組み等の説明を求めましたが、Web 掲載情報以上の説明はできないとのことでした。そこで、Web 情報についてできる範囲内で調べた内容を別紙メモで作成してみましたので、これを参考に SARTRAS 側でブロックチェーンの導入について前向きに検討いただければと思います。

3. 大学をはじめとする教育機関団体の設立支援について

大学をはじめとする教育機関の分配業務の受託団体(以下、「大学等教員分配団体」という)が含まれていませんので、大学等教員分配団体の設立支援を急ぐことを要請します。

その上で、著作権者の一元管理の導入と、ブロックチェーン技術を用いたシステムの導入を組合わせて透明性のある権利者データベースを構築し、そのデータを基に大学等教員個人に補償金を分配することを要請します。

日本音楽著作権協会(JASRAC)のブロックチェーン技術活用について (メモ)

1. 日本音楽著作権協会(JASRAC)での音楽著作権管理

JASRAC は、作詞者・作曲家・音楽出版社などの権利者と「著作権信託契約」を結び、音楽著作権管理の委託を受けている。利用者に利用を許諾し、対価の著作権使用料を著作権者に分配する。

利用者は、JASRAC に手続きを行い、利用報告の上、使用料を支払う。なお、利用・製作、業態などにより使用料は異なるが、JASRAC では、基本的に曲目や演奏回数などの利用報告を求めている。

使用料は、年 4 回利用実績をもとに使用料分配計算を行った上、作詞者・作曲家・音楽出版者などの著作権者に作品毎の利用明細を付して、分配する。

2. 開発の背景

音楽業界では、ストリーミングサービスの定着に伴い、楽曲制作からマーケティング・流通までを自ら行う個人の音楽クリエイター (DIY クリエイター) が増加している。

DIY クリエイターは、個人での活動のため、無断利用やなりすまし公開への対抗手段が困難、使用料分配の仕組み、管理委託契約・楽曲登録の複雑・煩雑さを感じるなどから、JASRAC 既存の著作権管理システムの利用はハードルが高い課題があった。

3. 開発システム

音楽クリエイターが安心して楽曲を発表でき、適正な対価還元を受けるための各種手続きのハードルを下げることを目的としたクリエイターDX プラットフォーム「KENDRIX」を開発した。ベーシックアカウントとして、ブロックチェーン技術を活用した存在証明機能を提供し、ビジネス+アカウントとして、eKYC 機能を備える楽曲情報管理システムを提供している。

4. KENDRIX の内容

(1) ブロックチェーン利用の存在証明機能

KENDRIX は、音源ファイル等を登録すると、音源ファイルのハッシュ値、タイムスタンプ、ユーザ情報、タイトルとバージョンの情報がブロックチェーン上に記録され、存在証明として公開用の URL が発行できる。

存在証明を YouTube など楽曲を公開する際に記載することで、いつ誰がそのファイルを所有していたかという事実が客観的に証明され、盗作や無断利用の抑止につながり、ブロックチェーン情報は権利争いが起こった際の証拠能力となる。

(2) eKYC (オンラインでの身元確認機能) によるオンラインでの信託契約の申込み

KENDRIX に個人情報を登録し、eKYC による身元確認を行うことで JASRAC との信託契約・作品登録のオンライン化を実現している。

(3) ブロックチェーン環境

コアシステムは、ソニーグループ(株)が開発した権利管理ブロックチェーンシステムを採用している。

システム開発は、(株)Sun Asterisk が担当し、アジャイル開発の手法 (大まかな仕様と要求だけを決めて小単位で実装とテストを繰り返して開発を進めることで開発期間の短縮も見込める) を用い、JASRAC とのプロジェクトの形で、最小限でつくって、検証しながら、ユーザに使ってもらえるものを提供するスタイルで開発を進めた。